

Lydianではソロピアノを積極的にブックキングしています。ソロピアノは現状ではトリオに比べると人気がない、ある意味特殊なフォーマットですが、ピアノという楽器の持つ美しさを最も味わえると同時に、ソロピアノでしか表現できない音楽の美しさが確かにあると思うからです。

ジャズピアノといえばトリオというイメージを持たれている方がほとんどだと思います。ビル・エヴァンスやオスカー・ピーターソンなど、モダンジャズの名ピアニストも、ほとんどトリオフォーマットで演奏してきましたし、名盤も数多いので、文字通りピアノジャズの鉄板と言えるフォーマットでしょう。

コードの下部構造を支えるベースがルートと5度を中心にビートを刻み、その上でピアニストの自由な左手がルート抜きのテンションを含めたコードを弾き、右手でアドリブを繰り広げる。ドラムがそれに絡んで気持ち良くリズムを修飾して、要所では3者がブレイクしたりバシッと決める、こんなところがピアノトリオ演奏の代表的な魅力でしょうか。

これ以外にも、エヴァンストリオに見られるベースとのインタープレイなどもあります。共通しているのは3人のミュージシャンが楽器の最も得意とする機能を使って相互にインスパイアして、アンサンブルとビートを作っていくという気持ちよさ、安定感にあると思います。掛け合いをする際のミュージシャン同士のアイコンタクトやサインなどもあるし、MCでも話題を振ったり漫才のようにつけあったりという楽しさもありますよね。

そこへ行くとソロピアノは、ピアニスト1人だけです。それだけでサビシイ感じがします(笑)。「今日の素晴らしいミュージシャンを紹介します」というリーダーによるお約束のMCありません。トリオやそれ以上大きな編成に比べてソロピアノの人気が今一つなのは、「トリオが一番」という固定化したイメージに加えて、ミュージシャン同士の掛け合いやコミュニケーションがないという点にあるのだと思います。

◎ベースがいなくてもコード感を表現できる

そうしたイメージや視覚的要素を別にして音楽的な面に限れば、ソロピアノがピアノトリオに比べて不足している要素というのは実はそれほどないとも言えるのです。トリオの時にはベースとピアノが共同でコード感を作るのですが、ピアノだけでもそれを表現することができます。

もともとモダンジャズ以前は、ピアニストが1人でコード感を作るのが一般的でした。ソロピアノでは、小節の最初の拍でルート（ドミソのド）を弾き、3拍目でオクターブ上のコードを弾くストライドという奏法がよく使われました。

ウィリー・"ザ・ライオン"・スミスという、ストライド奏法時代を代表するピアニストの、手元を写している基調な動画がありました。1964年にベルリン・フィルのホールで演奏した時のものですが、6分7秒辺りで、左手でルートを弾いてから高い方へジャンプしてコードを抑えるストライド奏法を見ることができます。曲はお馴染みのティーフォートゥーです。今聴いても相当高度なことをやっています。
https://www.youtube.com/watch?v=n_xiF4UVpsU&list=RDEM04-yvKyW0wSfxDglt6HhMw&start_radio=1

スイング王・ベニー・グッドマンのトリオはベースレスで、低音部も含めたコード感はピアニストのテディ・ウィルソンが1人で担当していました。モダンジャズ時代に入ると、コードの下部構造はベーシストが担当し、ピアニストの左手はルートから開放されてテンションも入れることでモダンな響きを出すというのがパターンとなりました。

その後も色々な奏法の開発がされ、低音部ではストライド奏法以外にもウォーキングベースを左手で弾いたり、スプレッドやブロックコードなど、メロディをハーモナイズする方法も確立されているので、ピアノだけで過不足なくジャズを演奏することができます。

Lydianでソロピアノを弾くピアニスト達は、コード感とモダンな響きを両立させ、しかもリズム的にもビート感を出しています。特に若いピアニストのソロ能力の高さは特筆もので、実際Lydianにソロで登場するピアニストは皆若いですね。逆に、トリオで素晴らしい

い演奏をするベテランピアニストにソロを依頼すると「ソロは下手なので勘弁を」と正直なリアクションをいただいたこともあります。それだけソロピアノは難しく、トリオでの演奏とは違うテクニックを要求されるということです。

◎すべての音を聴き分けられるのがソロの魅力

ソロピアノの良いところは、何と言ってもすべての音を明瞭に聴き分けられるという点にあります。トリオだとドラムの音圧が大きくなるとどうしてもピアノの繊細な音のある程度かき消されてしまいます。また、低音のベースウォーキングにしても、テンポが早くなるとベースの音（ピッチ）を聴き分けることが難しくなるのに対し、ピアノでウォーキングすると一つ一つの音が明瞭に聴こえるので（良い状態のピアノに限りますが）、コード感がよりはっきり分かるのです。

何度もソロで登場いただいているハウエイ・キムさんがコルトレーンが作った難曲の「Giant Steps」を弾いたことがあります。コード進行が細かくしかも複雑なので、ソロでどう演奏するのだろうかちょっと驚いたのですが、聴いてみると、ウォーキングベースを中心とした左手のラインがきちんと聴き取れるので、むしろベースが入った構成よりコード感がよく分かるのです。あれには驚くと同時に、ソロピアノの可能性の大きさを再認識しました。

逆にソロピアノならではの別の難しさもあります。ピアニストに限らず、ミュージシャンは、今弾いている部分より少し先の小節までのコード感を頭の中で響かせながら、浮かんだフレーズを弾いているわけですが、ミュージシャンも人間ですから次に弾きたい音が浮かんでこない瞬間もないわけではありません。

トリオなど共演者が居る場合は、そういう瞬間があってもベーシストが弾くラインを聴いていればそれをヒントにして次のフレーズが浮かぶこともありますし、インスピレーションが湧くまで弾かずに休んでいるということもできるわけですが、ソロだと弾きたい音が浮かぶまで弾かないということが難しいのです。このため、「弾きたいと思ったわけではないけどコードには合う音」をなぞってしまう可能性もあるわけです。「今日は1回か2回そういう瞬間があったなあ」とフランクなピアニストが一度話してくれたことがあります。

なので、ソロはピアニストにとっても集中力を一瞬も切らすことができないというプレッシャーがあり、真剣勝負ならではの疲労もあります。しかし、ソロでこそ表現したい曲、世界は確かにあると考えるピアニストも多く、彼らの演奏を聴くとピアノで表現できる音楽の素晴らしさに毎回感動してしまいます

演奏自体がいくら素晴らしくても、ソロピアノはピアノ自体の状態が良く、しかもその音をよく響かせるハコ鳴りもよくないと十分堪能できません。ピアノはよく調律されていることはもちろんですが、特にベース音を弾く低音域の弦の音をきれいに聴き取れないと魅力が半減します。

手前味噌になりますが、LydianのヤマハC5はもともと良い音の個体であったことに加え、腕ききの調律師が毎月整えてくれています。このピアノはソロで弾きたいと言っているピアニストも少なくありません。お客様の評判も上々で、ライブ中、ピアノの響きに酔いしれている感じのお客様も多いです。

◎Lydianにソロで登場するピアニスト達

Lydianでは、ソロピアノライブをシンプルな録音機材で録った動画を、ミュージシャンの了解を得てyoutubeにアップし、ホームページからリンクを貼っています。生には遠く及びませんが、それでもソロピアノであればピアノとハコの響きのイメージをある程度持っていただけだと思います。現在、魚返明未さん、栗林すみれさん、西山瞳さんの演奏をアップしています。<http://jazzlydian.com/musicians.html>

この中で栗林すみれさんの「Eu sei que vou te amar(あなたを愛してしまう)」を聴いていただきたいと思います。
<http://jazzlydian.com/musicians.html>

この上なく美しいジョビンの名曲を見事にソロピアノで表現しています。テーマメロディを弾いた後1分28秒あたりからアドリブコーラスに入りますが、前半では右手でコードを刻みながら左手で低音域を使ったアドリブを弾いています。Lydianのステージではこうした低音のメロディも明瞭に聴くことができます。

2分2秒からはコーラスの後半に入り、今後は左右の役割を変えて右手でアドリブを弾いていきますが、メロディラインが実に美しいですね！この時メロディを小さくスキヤットしながら弾いているのがわかると思います。栗林さんによると、打鍵した瞬間から減衰していくピアノの音に声を重ねることで、音が伸びたように感じられる効果を狙っているそうです。

この他、Lydianでは素晴らしいピアニストのソロをブッキングしていますので、是非一度お越しください。特にソロピアノに偏見？を持っている方にこそ聴いていただきたいと思います。きっとイメージが変わります！

・魚返明未(おがえり あみ)さん

芸大作曲家出身のスーパーピアニスト。コントロールされたバラードの美しさから、激しくエネルギッシュなスタイルまで、初めて聴いたお客様が一瞬で惹き込まれます。次回は5/18(土) 19:15～、お聴き逃しなく！

・片倉真由子さん

これぞジャズ！というソロピアノを弾きます。泉のように湧き出る歌うメロディーと長い音符で抜群にSWINGします。モンクの曲などでは「ゴン！」という響きの重いコードを聴かせてくれます。

・栗山梢さん(Kozue)

コンテンポラリーなオリジナルが人気で、お客様をなごませるほっこりしたMCと相まって、美しいピアノサウンドに身を委ねることができます。

・田窪寛之さん

ビル・エヴァンスに傾倒し、トリオではエヴァンス関連曲をメインに演奏しますが、ソロではスタンダードも多く、歌うメロディラインを効果的に浮き出させるタッチコントロールが見事です。

・ハクエイ・キムさん

左手が実に強力で様々なリズムパターンを駆使して有機的なソロを組み立てます。コンテンポラリーな音使い、両手ヴォイスिंगの響きもカッコ良いです。次回は5/15(水) 19:15～、お聴き逃しなく！

・兵頭佐和子さん

ジョンレノン・ソングライティング・コンテスト2013などで受賞歴のある素晴らしい作曲家であり、ピアニスト。初めて聴いても良さが分かるBlu FlameやSakuraなどのオリジナル曲が人気です。

・山田貴子さん

タッチが強く、Lydianのピアノを最もよく鳴らしてくれるピアニストの一人、強靱なピアノサウンドという言葉がピッタリ来ます。

以上